



Vol.131

2018
Winter

平成30年1月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

新年のごあいさつ

長野県知事 阿部 守一 氏 / 県民児連会長 伊藤 篤志 氏



Contents

- ◆ 新年のごあいさつ 2
- ◆ 新年特別寄稿
会報「長野県民生児童委員だより」の32年 3
- ◆ 平成29年度関東ブロック民生委員児童委員
活動研究協議会(新潟大会)報告 4
- ◆ シリーズ 児童委員の役割を考える
事例(関東ブロック第3分科会より) 5
- ◆ 民児協訪問
信濃町・木祖村 6~7
- ◆ 民生委員制度100周年記念活動報告 8

新年特別寄稿

熊井 文弘
(本誌つなぐ編集長)



会報「長野県民生児童委員だより」の32年

会報「長野県民生児童委員だより」は、昭和62年7月10日の創刊以来、年間4回の発行を続けてきました。平成23年4月には「長野県民生児童委員だより・つなぐ」に改称され、今号で131号になります。長野県の民生児童委員活動を記録し続けた会報の32年間を振り返りました。

創刊号から掲載が始まった「地区民児協の動き」（地区民児協の活動紹介）は、その後、「私たちの民児協」、「民児協だより」として今日に引き継がれています。また、委員個人の活動寄稿欄「ひろば」は現在も続いています。

今後、委員活動の事例や情報提供、県民児連の活動や事業についての報告と記録という会報の役割を意識しながら紙面の充実に努めたいと思います。

◆創刊号 (昭和60年7月10日発行)

身近で有用な情報提供と委員同士の意見交換の場をめざして発行。B5版8ページ構成。題字は、当時の吉村午良知事の揮毫で、103号まで使用された。



◆第26号 (平成3年10月1日発行)

平成3年7月11・12日、松本市で開催された「全国婦人民生児童委員研修会」を特集。



◆第36号 (平成6年4月1日発行)

平成6年1月1日、主任児童委員制度が発足。県下で365人(内・女性265人)が委嘱された。「主任児童委員への期待」など関連記事を掲載。

◆第59号 (平成12年1月1日発行)

平成11年11月17・18日、長野市で開催された「第68回全国民生児童委員大会」の報告を掲載。この号から紙面サイズをA4版に拡大した。



◆第90号 (平成19年10月1日発行)

平成19年7月19・20日、須坂市で開催された「第20回長野県民生児童委員大会」の様子を、記念講演の全文を含め、15ページにわたり特集。

◆第92号 (平成20年4月1日発行)

90周年記念事業として全国展開された「災害時一人も見逃さない運動」の県内における取り組み状況調査の結果を掲載。

◆第100号 (平成22年4月1日発行)

創刊85号(平成18年7月)から2色カラー化となっていたが、100号を機に全面カラー化を実現した。



◆第104号 (平成23年4月1日発行)

タイトルを「長野県民生児童委員だより・つなぐ」に改称。特集や取材による「民児協訪問」を設けるなど内容も一新された。



◆第120号 (平成27年4月1日発行)

平成26年11月に発生した神城断層地震における民生児童委員の動きを白馬村民児協に取材、緊急特集を組んだ。

◆第130号 (平成29年10月1日発行)

民生委員制度創設100周年記念全国大会(7月9・10日、東京都)の報告を特集。

2018 新年のごあいさつ



長野県知事
阿部 守一

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。民生委員・児童委員の皆様におかれましては、平素から地域福祉の向上、地域の皆様の支え手としての御尽力、御活躍に対し、心より感謝申し上げます。昨年、民生委員制度創設100周年という大きな節目を迎え、今年には次なる100周年に向けたスタートでもあります。

さて、今年は、信州にとっても新たな時代に向けた節目の年となります。2月には長野冬季オリンピック・パラリンピックから20周年を迎えることから、世界中に感動をもたらし、レガシーを継承するべく、開催市町村とともにさまざまな記念事業を実施します。



民生委員
生協長
児童委員
会長
伊藤 篤志

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は、民生委員制度創設100周年を記念する全国民生委員児童委員大会が東京都内で開催されました。天皇、皇后両陛下ご臨席のもと行われた式典には全国からおよそ1万人、長野県からは145人が参加しました。

記念大会では、100周年の節目に際して、全国の民生委員・児童委員がめざすべき活動の方向性を示す「100周年活動強化方策」が公表されまし

さらに、今冬の平昌を皮切りに東京(2020年)、北京(2022年)と続くオリンピックムーブメントを東アジアから発信し、スポーツ交流やインバウンドの促進などを通じて本県の発展へとつなげてまいります。

4月からは、次期総合5か年計画がスタートします。急激な人口減少、第4次産業革命とも呼ばれる技術革新、人生100年時代の到来など私たちが取り巻く環境は加速度的に変化しています。こうした潮流を捉えつつ、多くの県民の皆様の夢を結集した計画とするために、幅広い県民の皆様との対話を重ねてきました。

基本目標は、「確かな暮らしが営まれる美しい信州へ学びと自治の力で拓く新時代」とし、「学びの県づくり」「産業の生産性が高い県づくり」「人をひきつける快適な県づくり」「いのちを守り育む県づくり」「誰にでも居場所と出番がある県づくり」「自治の力みなぎる県づくり」の6つ

た。今後の活動の重点は『地域のつながり、地域の力を高めるために』『さまざまな課題を抱えた人びとを支えるために』『民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくために』の3項目です。また、新たな活動スローガン『支えあう 住みよい社会 地域から』も合わせて発表されました。加えて、今回の活動強化方策では、地域社会の実情や民生委員・児童委員が直面する課題も異なることから「わがまちならではの地域版活動強化方策」の策定についても呼びかけています。

これを受けて、長野県民児連では、昨年末、「市町村民児協会長、単位民児協会長及び事務局合同会」を長野市内で開催しました。初めての試みでしたが、県内全域から民児協会長と事務

の政策推進の基本方針のもとに施策を展開していきたいと考えています。

また、昨年4月に県内10広域に設置した地域振興局ごとに目指す姿や重点的に取り組む政策を「地域計画」として策定し、諏訪湖創生ビジョンの推進、リニア新時代を見据えた地域づくりなど、これまで以上に各地域の特色を活かした施策に取り組んでまいります。

平成26年9月に県民の負託を受けて2期目の県政に取り組み始めてから4年目の新年を迎えることとなりました。長野県知事として、2007万県民の皆様と手を携え、人生100年時代における未来に向けた県づくりに挑戦できることに、大きな喜びと誇りを感じております。本年も「共感と対話」の県政を基本に据え、「しあわせ信州」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

結びに、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げ新年の御挨拶といたします。

局300余人のみなさんに参加していただき、ありがとうございました。今回は、全国社会福祉協議会民生部長・池上実氏に「単位民生委員児童委員協議会の運営について」と題する講演をしていただきましたが、単位民児協の役割や会長に期待されるリーダーシップなど今後の民児協運営にとって大変参考になる内容でした。

人びとが直面する生活課題や福祉課題が多様で深刻化するなか、民生委員・児童委員に期待される役割は一層大きなものとなっております。体調や事故などに十分ご留意のうえ、日々の活動を通して地域福祉の充実のためにご活躍されますようお願い申し上げます。皆さまのご健康とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

平成29年度 関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会

新潟大会 報告

平成29年度（第77回）関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会が、去る9月28日～29日、新潟県湯沢町N A SPAニューオータニで、関東ブロック都県市から計345人、うち長野県からは伊藤篤志県民児童連会長を始め20人が参加して開催されました。



▲第1日目の基調講演会

参加報告



長野市民児協副会長
米山 秀一 さん

1日目は式典と記念講演が行われ、式典では、全民児連の得能金市会長から、7月の100周年記念大会の成功について感謝の言葉があり、全民児連では100周年にあたり、全国の民生委員・児童委員、及び民児協関係者が目指すべき今後の活動強化策を策定したので、地域における取り組みをお願いしたいとお話がありました。

また記念講演では、講師の伊東セイスト藤田市男氏から、「心配させてもらいたいということ」と題して、10年間勤め心を病んで退

職し、その後消防団に入り伊東セイストの道に進む中で、娘の帝王切開による誕生に直面して、家族の大切さに気付いたとお話があり、日常活動に疲れた私達の心をちよつぱり癒してくれました。

2日目の分科会では、安曇野市主任児童委員会の委員長の荒深たつ子さんから、「児童委員、主任児童委員活動の推進と連携について」報告が行われ、関係機関と連携しながら、妊娠期から子育てまで切れ目ない支援を目指して、①子育て支援窓口の開設 ②学校との連携 ③民生委員と主任児童委員との連携…など、様々な取組みについて、パワーポイントを使って報告が行われました。



▲会場入り口の看板



▲2日目の分科会



▲民生委員の歌「花咲く郷土」斉唱

事例

関東ブロック研究協議会
第3分科会より

つなぐでは、児童委員の役割にスポットを当て、シリーズで掲載しています。関東ブロック研究協議会の第3分科会テーマ「子ども子育て家庭への切れ目のない支援を進めるために」児童委員、主任児童委員活動の推進と連携について考える」を記者が取材、一部を要約して報告します。

コーディネーター
大竹 智氏コーディネーターから
問題提起

社会福祉の根本は、一人一人の自己実現を目指すこと。高齢者も障がい者もすべての人々が幸せで自分らしい生き方ができた、生まれてきてよかったと思える人生をサポートすることです。支援とは何か、支援者はどういう視点で関わっていくのかを求められています。全国で年間12万件以上の虐待通告があり、心中など含め虐待死で70人の子どもが亡くなっています。

こんにちは赤ちゃん事業の全戸訪問で、確実に虐待死は減ったといわれています。では、なぜお母さんが誰ともつながらずに、子どもが死んでいるのかを検証していかなければならない。中学生は不登校が36人に1人、小学生は255人

に1人。子どもの貧困は6人に1人です。自己否定をし、夢も希望もない現実にいるのです。この問題を放置すると子どもたちの生きるエネルギーをすべて奪っていきます。地域の私たちが、どういう役割を担っていくのかを考える必要があります。今、親がいても子は育たない理由は何なのでしょう。

実践報告者4人からの
発表(概要)

① 神奈川県三浦市民児協

笹谷月慧さん

「子育て応援サロン ほっと・ハート事業」について、主任児童委員が始めた赤ちゃん訪問について発表。保健師が生後の訪問時に承諾を得た後に赤ちゃん訪問を主任児

童委員と民生委員が出かけます。市の子ども課に報告して心配なこととは保健師が訪問するなど、逆の方法をとることもあるそうです。

② 長野県安曇野市民児協

荒深たつ子さん

安曇野市の母子支援体制ネットワークの構築、母子・子育て相談窓口の開設、コミュニティスクールと民生児童委員・主任児童委員のかかわりなどを説明。特に相談事例を紹介してそれに対してどう受け止め対処したかの事例を発表しました。

③ 新潟市南区白根中央地区民児協

風間泰一郎さん

行政や社協を含めた全体の仕組みを説明。小学校との情報交換や一年生の下校指導への協力をはじめ、さまざまな事業で、女性の委員の活躍が目立っていることなどを発表しました。

④ 静岡市駿河区民児協

島村博章さん

こんにちは赤ちゃん運動、子育てサロンを通しママ友同士のネットワークができたこと。特に中学生と赤ちゃんのふれあい事業についての取り組みについては、命の大切さを学ぶ大切な活動で、参加者からも関心の声寄せられました。

コーディネーターより
まとめ

信頼できる大人との出会いが大事。自己否定感から生まれてきてよかった、生きるエネルギーにつながっていく。まさに民生児童委員が地域の中の信頼できる大人の役割になっています。子どもたちに声をかけて、困ったときは助けてといえる関係づくりが大切です。様々な組織や団体と得意不得意なところを互いに補い合いながらやっていくことが大事です。



▲実践報告者4人(左から2番目が安曇野市の荒深さん)

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



信濃町民生児童委員協議会



▲役場玄関横にある一茶の記念碑の前で
(原山会長は2列目左から5番目)

一茶生誕の地で、地区ごとに
絆を大事にした活動を

妙高、斑尾、黒姫、戸隠、飯縄の北信五岳に囲まれ、野尻湖を有する自然環境に恵まれた信濃町。民児協の定例会を訪ねたのは10月初旬にもかかわらず、すでに、雪対策について話し合われていました。冬季には、地域によって一夜にして1メートル積むこともあるそう。民生児童委員は、住宅除雪支援制度に基づき、屋根の雪下ろしなどを希望する一人暮らしの高齢者への支援内容や条件の確認、除雪支援員とのつなぎ役でもあります。一軒一軒回って現場の様子

も把握しています。いざというときは、依頼を受けて支援員につなぎます。必要とする高齢者の見守りを行っている民生児童委員だからこそできる役割です。

現在町の人口は約8200人、民生児童委員は29人、主任児童委員が2人です。地域の課題は、雪かきなどの若者の担い手が少ないこと。また県営住宅があつたり、別荘などへの都会からの移住者を把握し行くことが難しいことです。定例会の大きな特徴は、後半の

柏原、野尻、古間、富士里の4つの地区に分かれた情報交換です。1期目の委員が15人もいるため、「一人で抱え込まず、みんなで助け合つことが大事」と会長の原山公平さん。この日も一人暮らしの方の認知症の話や、冬季の共同住宅の要望、倒壊の心配のある家についてなど、その対処の仕方を共有し相談しあっていました。

防災マップも地区ごとに委員が集まって作成し2017年度も更新しました。副会長の佐藤悟さんは、川の氾濫を体験したことがあり、防災について詳しい存在。

「外に出て様々な場面で活躍している委員の経験や人脈を生かした支援体制ができています」と原山さんは強調します。



▲地区別情報交換会の様子

高齢者の交流事業としては、信濃町の社会福祉協議会が主催する「いきいきねんりのつどい」毎年2地区ずつ行っており、民生児童委員は、チラシで対象者を誘ったり、当日は会場づくりやお弁当の配布などに協力しています。ふれあい昼食会は年3回全体で開催しています。

子どもについては、信濃町は公立で小中一貫校教育が特徴です。「文化祭では8、9年生のパフォーマンスに1、2年生が大興奮していた。生き生きとした表情を見ることができた」とのこと。

民生児童委員は単独ではなく、仲間、役場、社協、学校などの機関と連携して顔の見える関係を築いて、地域を見守っています。

木祖村民生児童委員協議会



▲「お六櫛ポーズ」をきめる女性委員のみなさん
(一列目真ん中が原会長)

一人で抱え込まず、絆を大切にした 体制づくりで問題に対処

木曾川の源流の里として知られる木祖村の東には、旧中山道の難所である鳥居峠が位置します。江戸時代には京と江戸を結ぶ69宿の一つ「藪原宿」として栄えました。木工業で知られ、江戸中期から生産が始まった「お六櫛」が有名。観光はもとより、夏は白菜などの生産、冬はスキー場でにぎわい、別荘も点在しています。

会長の原悦子さんは民生児童委員となって2期目で会長に。11人の民生児童委員、内主任児童委員は1人。女性は7人です。保育園、小学校、中学校はそれ

ぞれ一つずつ。子どもたちとの触れ合いを持ちたいと、去年の12月から、小中学校の登校の見守りを学校に提案し、月1回、小学校は校門で、中学生はバス停で「おはよう」と声掛けを始めました。信州型コミュニティスクールの一環で教育委員会のあいさつ運動と協働。教育委員や校長先生も参加し児童に声をかけます。「始めればかりは、声をかけてもかげんな顔をしていた子どもたちが、活動を続けて1年、今では向こうから元気にあいさつをしてくれるようになった」と嬉しそうに話す原会長。顔が見えるようになり、運動会や文化祭にも行くのが楽しみになったといいます。「民生児童委員が心許せる人だと思ってもらえれば」と期待が膨らみます。定例会でも委員の一人から「夕方バス停を通りかかったら、バスを待っていた中学生のほうから思いがけず声をかけてもらった。これは活動の成果だと思った」との発言がありました。

独居の高齢者の見守りは、とにかく聞き役に徹することをモットーとしています。小さな村だけに、もともと知っている人も多く、その人の状況や村外にいる子どもの連絡先も把握。そして、会長は村内の老人ホームの第三者委員会にも所属し、情報収集に余念がありません。

定例会では、役場の担当職員、社会福祉協議会、保健福祉事務所、包括支援センターのケアマネージャーも出席します。司会は委員が持ち回りで、研修や活動の報告だけでなく、見守り対象者の名前や具体的な状況もその場で報告し合うようにしています。最近では認知症の問題が多く報告されるようになったとのこと。問題を整理し、「それは役場の職員が来週訪問します」「それについては社協でも把握し注意しています」など、解決方法を出し、対処。「一人で心配せず、みんなで把握して風通しの良い体制を」と地域の絆を大事にした活動は続きます。



▲木祖小学校の前でのあいさつ運動の様子



表紙写真紹介

豊科地区「白鳥湖」

撮影

安曇野市豊科地区民児協副会長

宮島昭裕さん

犀川のダム湖として知られる豊科地区にある「白鳥湖」には、11月下旬から3月初めにかけて、毎年数百羽の白鳥が越冬のためにやってきます。この写真は1月に撮影しました。

profile 写真が趣味で、地元を中心に、ウォーキングをしながら動植物の写真を撮り歩いています。



全国社会福祉協議会会長表彰（民生委員・児童委員功労）

平成29年11月22日（水） 全国社会福祉大会において表彰

堀籠 幸子（御代田町） 田中 のぶ代（長野市） 倉島 智恵美（長野市）
高野 昭子（岡谷市） 永田 繁江（須坂市） 土屋 珠江（佐久市）

民生委員制度100周年記念活動報告

SBCラジオ「ラジカン」【幸せ信州県民ラジオ】で広報

昨年9月6日、伊藤会長は、民生委員制度100周年にあたって、一般の方に民生児童委員の活動を知っていただくこと、長野県地域福祉課櫻井治彦さんと一緒に、ラジオ出演しました。伊藤会長が話した内容の一部を要約して掲載します。

民生児童委員というのは、社会福祉の増進のために、地域住民の立場から、生活の援助や相談に乗る人達のことです。地域のことをよく知っていて、ボランティア・福祉活動に理解のある方に担っていただいています。

実際の活動ですが、例えば、高齢者のお宅を訪問して、相談に乗ったり、内容によっては、関係機関につないだりします。普段から相手との信頼関係づくりが必要です。また、保育園での子育てサロンや高齢者の方達との会食など、地域とのふれあいを大事にしています。

私自身は、前任者が亡くなられ、区長さんから頼まれて民生児童委員になりました。初めてのことだったので、戸惑いながらも、先輩委員からの助言をもらいながら進めていきました。

民生児童委員は、現場に出ていって、実際に困っている方と向き合っています。行政と住民の橋渡し役です。こうした活動により、行政もきめ細かなサービスを提供していかれます。

市町村に問い合わせただくと、お近くの担当委員を紹介します。民生児童委員には守秘義務がありますから、秘密を守ります。安心して気軽に相談して欲しいです。

実は、民生児童委員は、後任者不足が問題になっていることは否めません。若い時代の人に入ってきて欲しいです。とてもやり甲斐のある仕事です。

民生委員制度ができて、100周年を迎えました。私は、80才になりますが、元気なうちは、他人事を自分ごととして、大変ですが頑張りたいと思っています。地域の皆さんのご協力とご理解をお願いします。



▲番組出演の様子

一斉改選から1年が経過し新任の委員の方々も日々の活動の流れには大分慣れて来た頃である。地域においては民生児童委員であるがゆえについて来る兼務職まで広範囲に及ぶ活動の多さにも驚いていることと思われ戸惑いや不安も感じる頃でもある。

茅野市では126人中約6割弱が新任。他の市町村ではどの位の割合だろうか？いずれにしても任期は3年間。2期3期から見ればまだ始まったばかりである。地域福祉の増進を図りつつ、関係機関とのパイプ役である事を再認識し、つなぎ役「つなぎ人」である事を更に確認したいものである。

先日、諏訪圏域6市町村（岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村）合同による民児協意見交換研修会が行なわれた。（平成17年から当番持ち回りで年1回実施）6市町村民児協3役、地区会長、主任児童委員長ら約70人。グループ形式で市町村を越えての意見を交わした。主なるテーマは、災害時の民生委員の役割と行動・住民に対しての活動の周知・生活支援に民生委員が関わる範囲・学校とのコミュニケーションの連携など民児協役員としての活動を共有し意見交換を行った。いずれの研修会も委員の識見を高める事を目的しており、直ぐに活用出来るものでなく漢方薬の様に後から効き目が表れるものである。

（深澤 保雄）

編集委員 / 熊井 文弘・土屋 珠江・増田 早苗・深澤 保雄

